

「グローバル社会で生きていく “日本人” の育成」

発表者氏名：	清野 真輝
所属学校種：	新潟大学教育学部附属新潟小学校
派遣職種：	小学校教諭
派遣国：	ドミニカ共和国
派遣先：	08-05 地区教育事務所，パストール・アバホ小学校
キーワード：	算数指導・外国語活動・国際交流



発表要旨：

要請内容は、現地の小学校教員の「算数指導力向上」です。しかし、現地には、年間指導計画も教科書もありませんでした。そのため教員は、自身の算数の知識だけを頼りに、算数指導を行っていました。その結果、同じ学年内であっても、学級によって指導内容が異なるなど、教育の機会均等が子どもに保障されていないという課題がありました。



そこで私は、教員の知識や指導経験によらず、どの学級でも同質の教育が行われるよう、「算数指導のシステム化」に取り組みました。算数指導のシステム化とは、①子ども用作業帳の作成、②教員用指導書の作成、③算数指導の打合会の実施、などがあります。教員の算数指導の負担軽減を訴え、1年をかけて、このシステムを浸透させました。

私は、数々の貴重な経験を通して、日本の教育の素晴らしさを再認識し、教育分野において日本が世界に貢献できることはまだまだ多いと気付きました。そして帰国後も、小学校教員として、「グローバル社会で生きていく “日本人”」を育成したいと強く思いました。

帰国後は、当校において、「外国語活動」の研究と、「中国・北京師範大学実験小学校」との交流推進という機会をいただきました。

外国語活動では、英会話レッスンではなく、異なる文化をもつ人々とコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを体験的に気付かせることを第一とし、生涯にわたる語学学習の目的をもたせています。

また、北京師範大学実験小学校との交流では、教員同士の交流から、年に1回ずつ互いに子どもを連れて訪問し合い、子ども同士の直接の交流を行うことができるまでに発展してきました。交流では、当校の子どもは外国語活動での学びを生かし、英語やジェスチャーを用いて交流を深めています。子どもは交流を通して、日本と中国との相違点や共通点に気づき、多くの子どもがまた交流したいと国際交流を楽しみました。